

北海道で暮らす多くの若者たちが、就職先として道外の企業を選びます。たとえば札幌市の場合、20代の労働力の域外（道外）流出がすべての世代のうちで一番多く、若者たちに札幌あるいは道内に留まるような政策は何かということがしばしば議論になります。他方で、道内で働き、道内で暮らしている人や、道外での勤務を経て道内に戻ってくる人（UターンやJターン）もいます。

北海道で働き、暮らすということ

今回のシンポジウムでは、俳優、作家、ビジネスパーソンという、それぞれ異なる仕事を持つ人たちが、北海道で働き、暮らすことを選んだ理由や、そのメリット・デメリットなどについて意見交換をしながら、東京への一極集中の問題や、地方を拠点にしつつも全国区に向けて発信することの可能性などを探りたいと思います。

日時

11月12日(土)
16:00~18:00

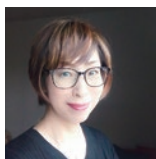
会場

北海道大学
人文・社会科学総合教育研究棟
W103 + Zoom同時配信

プログラム

- 講演
北海道スピリッツ、あれやこれや 桜木 紫乃
働く場所で暮らすのか、暮らす場所で働くのか 斎藤 歩
北海道、東京、NYの生活から得た学びとこれからの生き方 保田 優衣
- パネルディスカッション
コーディネーター 平本 健太
(北海道大学大学院経済学研究院教授・REBNセンター長)
- 質疑応答
- 司会・進行 岡田美弥子
(北海道大学大学院経済学研究院教授)

桜木 紫乃 (さくらぎしの)
作家



1965年釧路市生まれ。2002年『雪虫』で第82回オール讀物新人賞を受賞。2007年同作を収録した単行本『水平線』を刊行。2013年『ラブレス』で第19回島清恋愛文学賞、同年『ホテルロイヤル』で第149回直木賞、2020年『家族じまい』で第15回中央公論文芸賞を受賞。最新作は『孤蝶の城』（新潮社）。ほかにも『起終点駅（ターミナル）』『砂上』『ふたりぐらし』『光まで5分』『緋の河』『俺と師匠とブルーボーイとストリッパー』『ブルースRed』、絵本『いつかあなたをわすれても』（オザワミカ・絵）、『サチコさんのドレス』（そら・絵）など、著書多数。

斎藤 歩 (さいとう あゆむ)
劇作家・演出家・俳優



公益財団法人北海道演劇財団 理事長。1964年、釧路市生まれ。北大演劇研究会を経て、1987年に札幌ロマンチカシアター鮎鱈(ほうぼろ)舎設立。1996年、北海道演劇財団設立に伴いTPS契約アーティストに就任。2000年より(株)ノックアウト所属俳優として、東京での俳優・演出家の仕事を開始する一方、札幌でも2001年からTPSチーフディレクター。2016年4月より、札幌に移住し、北海道演劇財団の専務理事・芸術監督に就任。2020年7月より、理事長・芸術監督。2022年7月より、理事長。札幌を拠点にした演劇創造、東京を拠点にした映画、テレビ、舞台出演など活動は多岐にわたる。

保田 優衣 (やすだ ゆい)
フリーランス



1985年旭川市生まれ。大学卒業後上京し、ファッション業界で販売、MD業務に従事。二度のNY留学を経て経営コンサルティング会社に転職し、国内外で新規事業開発案件を中心に担当。コンセプト・戦略策定からパートナーリング、事業化検証までを伴走支援する傍ら、人事として採用・育成業務を兼任。2021年より拠点を札幌市に移し、現在はフリーランスとして経営アドバイザーや新規事業開発、人事関連業務（採用育成）、選書や記事執筆など、企業の求める役割に応じてマルチに活動中。北海道大学経済学部（学士）、Parsons School of Design FMM（準学士）、Fashion Institute of Technology GFM Program（修士）卒。

申込方法

QRコード、または下記URLより申込フォームにてお申し込みください。締切：11月9日（水）
<https://forms.gle/fKpc7vaiDYCCpo8h9>
対面での参加は先着100名までとさせていただきます。



お問い合わせ

北海道大学大学院経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センター
<https://rebn.econ.hokudai.ac.jp/eventinfo>

事務局 | TEL : 011-706-4112
E-mail : sacade2 (at) econ.hokudai.ac.jp ※迷惑メール防止のため (at) を@に書き換えて送信してください。